

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤和 太 (銀光)	職名	准教授	学位	博士 (医学) (九州大学 2005 年)
----	-----------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研 究 課 題
1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担 当 授 業 科 目
公衆衛生学 I (前期) 公衆衛生学 II (後期) 公衆衛生学 (前期) 健康管理概論 (前期) 管理栄養士演習 I (前期) 管理栄養士演習 I (後期) 国際栄養学 (後期) 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【公衆衛生学 I】</p> <p>聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気がつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【健康管理概論】</p> <p>スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習 I】</p> <p>国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【公衆衛生学 II】</p> <p>公衆衛生学 I では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学 II の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。遠隔授業の強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002年 10月～現在に至る
日本疫学会	会員	2003年 1月～現在に至る
日本癌学会	会員	2003年 10月～現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004年 8月～現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010年 12月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2019年2月	講談社	栄養学NEXT シリーズ教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文) 1. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.		2018年2月	<i>Gene</i> . 2018 5:642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006年と2007年の間で募集された35—69歳、4972人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた7つの選択されたSNPの連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相互作用が見られた。 ② 共著者 Seiki T, Naito M, Guang Yin , 他9名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177
2. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MI CC Study.	共著	2016年9月	<i>Nutrients</i> . 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	①日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型 ADRβ3 との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型 ADRβ3 Trp64Arg の交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ② 共著者 Hinako Nanri, Guang Yin , 他16名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	<i>Nagoya J Med Sci.</i> 2016 May;78(2):183-93.	<p>①日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究において、ALDH2 遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2 遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。</p> <p>②共著者 Guang Yin, Mariko Naitou, 他 16 名。</p> <p>③役割 ：論文作成、データ収集、統計分析 P183-193</p>
4. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015年3月	<i>Asian Pac J Cancer Prev.</i> 2015;16(5):2019-26.	<p>①この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである Apal 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。</p> <p>②共著者：Takeshige N, Yin G, 他 12 名</p> <p>③役割： データ収集、論文作成 P2019-2026</p>
5. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015年2月	<i>Ann Rheum Dis.</i> 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	<p>①この研究は、1994 名の日本人男性痛風患者と 2547 名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。</p> <p>②共著者 Mtsuo H Yin G 他 38 名</p> <p>③役割：論文作成、論文作成、データ収集 doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191</p>

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. PAPS1遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021年1月	第31回疫学会総会(オンラインで開催)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2772名である。この研究では、PAPS1 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他11名 ③第31回疫学会学術総会抄録集(P126)
2. カフェイン代謝酵素 CYP1A2 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020年2月	第30回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2695名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他11名 ③第30回疫学会学術総会抄録集(P146)
3. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連:既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016年1月	第26回 日本疫学会学術総会(米子コンベンションセンター)。	①対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 静岡地区ベースライン調査に参加した35-69歳の男女4995名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と7種のSNPとの関連を確認した。②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他9名 ③第26回疫学会学術総会抄録集(P150)

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 (2021年4月16日現在) 著書 3 (内訳 単1, 共2) 学術論文 40 (内訳 単0, 共40) 学会発表 27 (内訳 単0, 共27)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等(役職、委員、学生支援など)

情報システム管理運用委員会 委員 2013年度~2019年度 保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017年度~現在 衛生委員会 委員 2019年度~2020年度 予算委員会 委員 2020年度~現在 国際交流委員会 委員 2020年度~現在 FD委員会 委員 2021年度~現在
